

平成27年度 行政評価

市民参加ワークショップにおける提案と札幌市の考え方

目次	テーマ①:スポーツを楽しむ環境づくりと健康づくりの推進について	
	■事業への提案	P1~2
	■テーマに関連したその他の提案	P3~6
	テーマ②:ウインタースポーツの活性化について	
	■事業への提案	P7
	■テーマに関連したその他の提案	P8~9

■ 事業への提案

テーマ①：スポーツを楽しむ環境づくりと健康づくりの推進について

No.	事業	事業の問題点	事業への改善提案	検討結果	市の今後の取組の考え方	所管部局
1	ウォーキング実践指導ボランティア研修	<ul style="list-style-type: none"> ・活躍する場が少ない ・受講者が少ないのではないか ・若い世代の参加が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民による市民ウォーキング大会の運営を継続するために、開催しやすく負担が軽くなるような運営方法について研修してほしい 	すぐに実施する	<p>ウォーキング実践指導ボランティア研修は、地域で活動している方々に対し知識の習得とともに研修会を通じた交流により人材育成を図ることを目的として実施し、受講者の実践の場として市民交流ウォーキング大会の運営に関わっていただいております。</p> <p>研修の中で、ウォーキング大会を開催する際に、市民が継続的に開催できるよう負担が軽くなるような運営方法についてもテーマとして意見交換を行います。</p>	保健所
2	市民交流ウォーキング大会	<ul style="list-style-type: none"> ・参加できる人数が少ない ・どこで初心者向けのイベントをやっているか情報が足りない ・回数を増やして、様々な年代が参加できるように ・参加者が少ないのではないか ・人気があり先着順の為、参加できない人が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市や区役所の職員の方々へ、ウォーキングイベントやスポーツイベントへの参加を促す。 ・ウォーキング大会や札幌マラソン等に市民が平等に参加できるよう、開催回数を増やそう！ 	すでに実施済み	<p>市民交流ウォーキング大会や民間事業者による大会を含めたイベントの周知については、札幌市ホームページへ掲載し、市民はもとより職員への参加を呼びかけているところです。ウォーキングについては、市民一人ひとりが気軽に始められることから、イベントの開催はもとよりウォーキングマップ等を活用し、より多くの市民が興味を持ち実践できるよう普及啓発に努めてまいります。</p> <p>なお、全市民を対象とした市民ウォーキング大会を8年間開催したことで、日常的にウォーキングを取り組むきっかけとなりウォーキング人口のすそ野が広がったと推測されます。</p> <p>今後は全市民対象の大規模なウォーキング大会の回数を増やすことよりも、日常的に気軽にウォーキングに取り組める普及啓発を継続していきたいと考えています。</p>	保健所
3	ウォーキング推進キャンペーン事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングマップがどこでもらえるかわからない ・マップが知られてないのが残念 ・地下鉄駅全駅に設置してほしい ・記載内容が更新されないと飽きてしまう ・まち中での実施はないのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・地下鉄階段のメッセージを改札から出入口にも入れる。食べ物に換算したカロリー表示もしては？ ・ウォーキング推進キャンペーンの中で、地下鉄階段のような距離やカロリーなどの表示をチカホにも表示する。 ・ウォーキングの「事後」の効果を「生の声」としてPRする。 ※事後の効果をフォローするアンケートを実施して生の声を集める（定期的）> 終了直後のアンケート ※「産後ダイエットになった」「病院に行く回数減った」など人を惹き付けるメッセージでPR ・上を歩くと発電する「発電マット」を企業とコラボレーションで設置する、市民に募集して階段にメッセージを設置するなど、楽しく健康のために階段を歩いてもらう仕組みを作ろう！ 	検討する	<p>地下鉄階段の消費カロリーやメッセージ表示については、健康づくりについて自然に認識できる有効な取組と考えております。チカホでの表示や、事後効果につきましては、今後検討してまいります。</p>	保健所

No.	事業	事業の問題点	事業への改善提案	検討結果	市の今後の取組の考え方	所管部局
4	健康づくりサポーター等派遣事業	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人のグループへの派遣が少ない ・派遣実績が少ない ・食事による健康づくりの視点が足りない ・周知不足がもっていない ・多くの町内会が取組みを知らないのではないか ・サポーターの人数を増やしてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動のステップアップのトータルコーディネートを支援する仕組みがあると良い！ ※一度運動したが、その後「何をしたらよいかかわからない」から続かない ※既存活動団体の情報も提供したり、活動団体をつなぐ健康づくりの「ハブ役」をつくる ※サポーターを増やす、サポーターを選択できる、サポーターの家（拠点） 	すでに実施済み	健康づくりサポーター派遣事業は、健康づくりに取り組んでいる、またはこれから取り組もうとする団体に対して、ボランティアとして登録した健康づくりサポーターを講師として派遣する事業です。事業を実施している各区の保健センターでは、サポーターを派遣するだけではなく、活動が継続できるよう随時コーディネートを含めた相談に応じております。また、年度初めに広報さっぽろでお知らせするとともに、町内会等住民組織の会議に職員が出席した際には、事業の情報提供をするなど積極的に周知を図ってまいります。	保健所
5	スポーツ推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと市民に身近な活動を ・身の回りの委員を知らない ・市民に知られていない ・若い人が少ない ・人材不足が知られていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員の不足に対応するために、体育系の大学とコラボして学生を活用しよう！（※単位を与えてあげたら学生にとってもウマミあり！） ・スポーツ推進委員は公募制にし、年代・性別を区切って募集し、地域で「健康寿命を延ばそう」 	検討する	大学等の教育機関との連携につきましては、これまでも事業の実施などにおいて行ってきたところです。今後は、スポーツ推進委員のなり手不足という実情を踏まえ、ご提案の趣旨も含めた若い世代の参画の可能性について、委員の選任要件、手続きなどの検討を進めてまいります。	スポーツ部
6	スポーツ事業促進助成	<ul style="list-style-type: none"> ・利用しやすい料金に（特にスキー場） ・マンネリ化・自然に親しむ視点を含めた事業支援を ・助成条件が厳しい ・申請が大変だがメリットが少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・申請の簡略化や、助成条件の見直しをしてほしい 	検討する	申請様式、申請方法等については、申請者の負担が過度とならないよう、これまでも配慮に努めてきたところであり、また、助成条件についても助成金選考委員会において協議するなど、随時見直しをしてまいりましたが、ご提案の趣旨を踏まえ、さらなる改善に向けて今後も検討を進めてまいります。	スポーツ部
7	学校開放事業運営	<ul style="list-style-type: none"> ・同じグループが押さえていてなかなか予約が取れない ・プール開放の日数が少ない ・運営を継続拡大できるか ・特定な団体しか使えない印象がある ・申し込みが面倒 ・会場が抽選で遠方だと困る ・校庭も使用できるとよい ・特定の人が使用している 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校開放事業の中で、プール開放の日数を増やしてもっと気軽に利用できるようにする。また、現在PTAが行っている監視員は地域のボランティアを育成するなど、体制を強化する。 ・学校開放事業の場所の不足に対応するために、グラウンドや廃校・空き施設などを活用しよう！ ※子どもが安心して遊べるよう、見守りをシニア世代（地域の方）等に任せる！ 	検討する	学校のプール開放については、7月及び8月の土日祝のうち開放日数を延べ8日以内としておりますが、運営面や経費などの課題があり、現時点では開放日を増やす計画はありません。なお、今後利用が可能な廃校や空き施設等が生じた場合の活用に係る検討が行われる際には、スポーツ部としても利用の可能性について検討を行ってまいります。また、現在実施している事業に、地域ボランティア育成やシニア世代活用の視点を盛り込めるよう工夫してまいります。	スポーツ部
8	オリンピックズキャラバン事業	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会や体育振興会のイベントだけでは人数が少ない ・知名度が低い ・あまり活用されていない ・ジャンプなどやや特殊な競技での派遣が難しそう 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業が活用されるよう、幅広いイベントで取組を行ってほしい 	数年以内に実施する	H25年度の事業開始以来、市内の各体育振興会やスポーツ推進委員が中心となってイベントを開催し、市民周知を図りながら利用者数を増やしてきました。H27年度は前年度の884名を大きく上回る1470名の利用者を集め、今後さらに利用者を伸ばしていくことが期待されます。今後、より多くの市民の皆様がこの事業を利用いただくために、ご提案の趣旨を踏まえ、様々なイベントでこの事業を活用することも検討してまいります。	スポーツ部

■テーマに関連したその他の提案

NO	提案事項	検討結果	市の今後の取組の考え方	所管部局
1	・市民1人1人が持つ札幌市発行の「健康手帳」をつくり、スポーツイベント等のスケジュール管理、健康の目安等を管理できるようにし、企業コラボでポイント集めもできるようにしよう！	検討する	健診結果等を記録する健康手帳については、平成22年度市民評価（事業仕分け）において、健診結果は受診機関から記録として交付される等の検討結果を受け、交付を廃止しております。また、近年の健康志向の高まりにより、ITを含めた様々な健康管理のツールも手に入れることができるようになっております。健康手帳の再作成にあたっては、社会環境も踏まえ十分に検討する必要があり、企業との連携も含め検討してまいります。	保健所
2	・「スポーツ」をスポーツ事業に留まらず、人口減少、少子化対策、政策づくり等、様々な事業や考え方などで大きく捉え、活用していこう！	すでに実施済み	「札幌市スポーツ推進計画」では「スポーツ元気都市さっぽろースポーツを通じて、市民が、地域が、さっぽろが元気にー」を基本理念に掲げ、まちづくりにおける幅広いスポーツの活用を進めることとしております。また、人口減少の緩和に向けて策定された「さっぽろ未来創生プラン」においては、「結婚・出産・子育てを支える環境づくり」の取組に、子どものウインタースポーツ振興などが掲げられるなど、今後さらにスポーツを通じたまちづくりを進めていきたいと考えております。	スポーツ部
3	・健康づくりに関する情報提供の方法に工夫とバリエーションを！ ※郵便・タウン誌、WEB、SNS、アプリ、媒体、ラジオなどを活用する ※登録制などを活用して興味分野や内容が届く仕組みをつくる	すでに実施済み	札幌市の広報媒体以外の情報発信として、企業の発行する市民向けの情報誌掲載や、チラシアプリの活用など、企業と連携しながら情報発信を行っております。今後もより多くの市民へ情報発信ができるよう、工夫してまいります。 (※登録制の情報発信については、費用対効果や他都市の先進事例などを参考にしております。)	保健所
4	・拠点施設も大切だけど、身近な場所の健康づくりスポットを増やす ※例：バス停・小さな公園の健康遊具	検討する	高齢社会において、より身近な場所で健康づくりに取り組める環境の整備は重要なことと認識しております。今後の取組につきましては、関係部署や企業等とも連携の上、健康情報の発信方法や、健康づくりの身近な拠点づくりについて工夫してまいります。	保健所

NO	提案事項	検討結果	市の今後の取組の考え方	所管部局
5	・事業成果の「わかりやすい指標」と、成果報告の方法を工夫すると市民も評価しやすい！！	数年以内に実施する	札幌市健康づくり基本計画「健康さっぼろ2 1（第二次）」の中間評価を平成30年度に予定しておりますので、市民への報告方法を分かりやすくできるよう、工夫いたします。	保健所
		数年以内に実施する	「札幌市スポーツ推進計画」については、中間年である平成29年度を目途に、内容の再検討を行う予定としております。その際、指標や成果報告の方法についても、よりご理解いただけるよう検討を行ってまいります。	スポーツ部
6	・健康づくりに力をいれている企業がメリットがあるような仕組みづくり（認定など）を整える！ ※社員向け、地域向けに取り組む企業 ※ポイント制度の導入！（限定品がもらえる、割引される）	検討する	札幌市では、市民一人ひとりが健康づくりに取り組みやすい環境を整備する取組に賛同し、札幌市と連携して活動頂ける企業・団体等をホームページ上で募集しております。現在14の企業が連携して協働事業に取り組んでおり、その内容等について、札幌市のホームページで公表しているところです。ご提案いただいた内容も含め、今後より多くの企業が、札幌市と連携して活動いただける仕組みを検討したいと考えております。	保健所
7	・「運動ですよ運動」を民間と協力して展開！ ※買物などの日常行動が運動になることへの気づきを！ ※例：お店一周で何kcal という表示	すでに実施済み	健康づくりに関しては「健康寿命の延伸に関する連携協定」を締結する企業等との協働により啓発等に取り組んでおります。今回ご提案いただいた日常的な健康づくりの工夫を参考にさせていただき、今後もより多くの市民が関心を持てるよう啓発を展開してまいります。	保健所
8	・多世代、色々なライフスタイルの方が集まり健康や運動について話し合える今日のような場を！	すでに実施済み	状況に応じて、市民からの意見を聞く場を適宜設けております。一例として、札幌市健康づくり基本計画策定時におけるパブリックコメントや、若い世代の健康づくりの実態把握のため、ワークショップを実施するなどの取組を行っております。	保健所
		すでに実施済み	「札幌市スポーツ推進計画」の策定時におきましても、グループ単位で意見交換をしていただく「市民懇話会」を開催いたしました。今後も、スポーツに関する計画の策定の場などを中心に、今回のワークショップのような、市民の皆さまの声を聞く機会を設けてまいりたいと考えております。	スポーツ部

NO	提案事項	検討結果	市の今後の取組の考え方	所管部局
9	・スポーツや健康づくりに主体的に取り組む人を増やす。地域や町内会単位以外でも取り組める場所があると良い。(スポーツ経験が少ない人や、レベルが高くない人も)	すでに実施済み	市民がそれぞれの状況等に応じ、健康づくりに取り組むためのきっかけづくりとするための一例として、地下鉄駅階段への健康メッセージ表示や、ウォーキングマップの作成等を行っております。今後も市民が主体的に健康づくりを継続できるような情報発信を、企業等とも連携しながら工夫してまいります。	保健所
		すでに実施済み	現在、市の体育施設において、さまざまな種目の教室が開催されていますが、教室の多くは競技レベルに応じた教室になっており、スポーツ経験が少ない人やレベルが高くない方のための教室も開催されています。 体育施設は一般開放や大会などの専用利用もあるため、開放形態のバランスを取りながら、スポーツ経験が少ない方等がスポーツや健康づくりに取り組めるような教室を開催していきます。 【H26年度主な施設グループの教室・イベント等の開催実績（一般事業）】 ①体育館グループ：2,996事業、44,019人参加 ②温水プールグループ：1,632事業、26,346人参加	スポーツ部
10	・運動とプラスα（食や施設見学など）を楽しめるツアーなどの取組が行われるよう支援する。	検討する	運動以外にも食生活等いろいろな健康づくりの要素を取り入れ、市民が楽しく健康づくりに取り組める方法を検討いたします。	保健所
		検討する	スポーツと食を楽しめるツアーについては、民間レベルで既に実施しているものもあることから、運動とプラスαを楽しめるツアーなどの取組が促進されるよう、札幌市としての支援のあり方などを検討してまいります。	スポーツ部
11	・若い人がオシャレに参加できる朝活を推進する。たとえば、北3条広場でヨガをして、オープンテラスで朝食など。様々な場所で行われるようになると良い。	検討する	札幌市では、若い世代の方の運動不足や朝食欠食率が高いなどの問題を抱えているため、公共の施設等を活用し、若い世代の方が積極的に健康づくりに関わることは重要だと考えております。 ご提案いただいた内容も含め、今後より多くの市民の方が、健康づくりに取り組んでいただける仕組みを検討したいと考えております。	保健所
12	・広報さっぽろにもスポーツを楽しむ市民の取組やコラムが紹介されると良い。	すでに実施済み	広報さっぽろ（全市版・各区版）では、これまでもスポーツをテーマとした記事が掲載されておりますが、今回のご提案を踏まえ、市民の皆さまに興味・関心を持っていただけるよう、広報さっぽろを含めた様々な媒体を活用して、情報発信に取り組んでまいります。	スポーツ部

NO	提案事項	検討結果	市の今後の取組の考え方	所管部局
13	・健康づくりセンターの運営は定員や料金など民間のマーケティング手法に学び、1回無料券を市民に配布するなど、裾野を広げる工夫を。	すでに実施済み	健康づくりセンターでは、事業内容を見直し、平成26年度から生活習慣病の重症化予防や介護予防の必要な方、障がいのある方などを特に重視する対象者として特定し、この対象者の健康状態の維持・回復・向上までを支援する施設として、利用促進を進めているところです。いただいたご意見を参考にし、今後の超高齢社会を見据え、対象者の利用者数の増加・定着を図ってまいります。	保健所
14	・区単位で特色をもった健康づくりの推進をして、ウォーキングの仲間づくりの手助けも区でやってほしい。	すでに実施済み	各区において既に取り組んでおりますので、今後も推進してまいります。 例えば、保健センターで開催している健康づくり教室の受講者について、その後も継続して運動に取り組めるようノルディックウォーキングの自主活動グループ化の支援をしたり、健康づくりリーダー研修の受講者に対して地区のウォーキング大会の企画・実施ができるよう支援し、仲間づくりの手助けをしている区があります。	保健所
15	・区などもう少し小さな単位でも市職員と市民が直接話せる場（ワークショップなど）を開催してほしい。	すでに実施済み	区では、健康づくりに取り組む市民が集まり情報交換や意見交換を行う健康づくりネットワーク会議を開催したり、区のウォーキング大会や、健康フェア等のイベント開催において、市職員と市民が直接意見交換をしながらイベントの企画等を行っております。	保健所
		検討する	「札幌市スポーツ推進計画」の策定時におきましても、グループ単位で意見交換をしていた「市民懇話会」を開催いたしました。今後も、スポーツに関する計画の策定の場などを中心に、今回のワークショップのような、市民の皆さまの声を聞く機会を設けてまいりたいと考えております。その際、ご提案の「区などもう少し小さな単位」での実施につきましても、検討を進めてまいりたいと思います。	スポーツ部
16	・札幌は健康寿命の長いまちというイメージを持ってもらう。そのためにも他市町村に学ぶ、他国に学ぶ。若い人が健康寿命について同世代や高齢世代と話せる場を！授業でも。	すでに実施済み	札幌市は、H25.26年度に健康寿命日本一の県である長野県松本市との健康づくりに関する市民交流を実施しました。長野県から学んだことを、地域での健康づくりに活用しております。今後につきましても、他市町村の先駆的な取組を参考にするとともに、若いうちから健康に関心をもてる若い世代のライフスタイルに応じた情報発信を工夫してまいります。	保健所

■ 事業への提案

テーマ②：ウインタースポーツの活性化について

No.	事業	事業の問題点	事業への改善提案	検討結果	市の今後の取組の考え方	所管部局
1	ノルディックスキー札幌大会 記念ウインタースポーツ活性化事業	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック選手の活用が少ないのではないかと ・魅力発信、PR は十分ではない。 ・ウインタースポーツ施設を通じたさらなる啓発が大切 ・身近な環境で雪に親しむ取組からのステップアップが大切 ・もっと雪に親しむ工夫が可能では（遊びの指標化、スポーツ化） ・剰余金はいつか尽きる ・ウインタースポーツキャラバンの予算200 万／年は少ないのではないかと 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノルディックだけでなく、アルペンスキーの普及・強化を促進する（指導者の育成など）。 ・いろいろな「雪遊び」を伝え、体験の機会を増やす。遊びのルールづくりや大会の企画・実施なども行っていく。 ・北欧などの冬の遊びなどを取り入れるための外国人の参加を促進する。冬に外でご飯を食べたり、ファミリーで楽しむノウハウがあり、文化の交流にもなる。 	検討する	<p>本事業では、ウインタースポーツ実施率向上のため、アルペンスキーやノルディックスキー等のウインタースポーツの普及に重点的に取り組んでまいりました。また札幌市ウインタースポーツ活性化推進協議会の議論に基づき、メディアの活用や観戦文化の醸成などに取り組んでいるところです。今後は、指導者の育成はもちろんのこと、小学生から様々な種目を体験できる機会を増やす取組を行うほか、ご提案の「外国人の参加促進」につきましても、他の事業も含めた今後の課題として検討を進めてまいります。</p> <p>雪遊びについては、雪まつりの残雪を利用して様々な遊びを体験できる「ウインタースポーツフェスティバル」という事業を行っております。また、札幌市発祥の「スノーホッケー」は、札幌市長杯も今年で33回目を数えるほど長い歴史があります。参加者は小学生から大人まで幅広く、他の市町村からも参加があるなど、特色ある冬のスポーツとして広く愛されており、今後もスノーホッケーの普及を続けてまいります。</p>	スポーツ部
2	地域スポーツマスター活用事業	<ul style="list-style-type: none"> ・市よりも学校や地域でボランティア募集に取組む方が広がりが出るのではないかと ・スポーツだけでなく、「遊びマスター」がいると良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツマスターをもっと活用していく。募集の他、ボランティア保険などの支援を充実させる。（学校の授業での体験は大切！） 	すでに実施済み	<p>地域スポーツマスター活用事業におけるボランティア指導者の募集については、今年度より各学校において募集を行いました。その結果、平成26年度に18名であった登録者が平成27年度は64名に増加いたしました。なお、ボランティア指導者の皆様に対する傷害保険については、札幌市が加入手続きを行い、その保険料についても負担させていただいております。</p>	スポーツ部
3	カーリング普及事業	<ul style="list-style-type: none"> ・5シートしかないカーリング場は小さい ・夏は氷の維持が高コストとなる ・カーリングのPR が足りない ・カーリング施設をもう少し増やしては ・成果の経年変化を見ていく必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会を増やしては 	検討する	<p>現在、初心者向けのカーリング体験事業及び観光客等へのカーリング体験教室を実施しているところであり、より多くの方にカーリングを体験してもらうため、講習会等の気軽に体験できる機会の充実について検討してまいります。</p>	スポーツ部

■テーマに関連したその他の提案

NO	提案事項	検討結果	市の今後の取組の考え方	所管部局
1	・ウインタースポーツのムーブメント、ブランディングを民間会社と連携して、オール札幌で展開していく。(活性化協議会の役割強化など)	すでに実施済み	札幌市では、これまでもウインタースポーツの活性化のために民間会社と連携しながら、メディアの活用や観戦文化の醸成事業などを行ってきました。これらの取組は、札幌市ウインタースポーツ活性化推進協議会の各委員の豊富な見識や経験から示唆を受けて実施されました。本協議会は法令上、意思決定を伴わない機関である懇話会に分類されますが、札幌市は今後も本協議会の活動を中心に、「ウインタースポーツの拠点都市」としてのブランドを高め、市民の誇りにつなげる取組を進めます。	スポーツ部
2	・大きな大会の誘致で、市民のウインタースポーツへの関心を高める。	すでに実施済み	札幌市では、2015年に世界女子カーリング選手権大会及びF I S ノルディックコンバインドワールドカップを、2016年に平昌五輪アイスホッケー2次予選及びF I S スノーボードワールドカップを開催したところであり、2017年には冬季アジア競技大会を開催する予定です。今後も積極的に大規模国際大会を誘致し、市民のウインタースポーツへの関心を高めていきます。	スポーツ部
3	・雪に親しむため、雪に関わる風景を活用していく。	すでに実施済み	ウインタースポーツシティとしての札幌をP Rするためのパンフレット、ポスター等に綺麗な雪の風景を用いるなど、雪に関わる風景を活用しているところではありますが、今後も様々な場面で雪に親しむ、雪に関わる風景を活用してまいります。	スポーツ部
4	・冬遊び情報を充実させ、リアルタイムで発信していく。SNS を活用する。	検討する	ご提案にあるようなS N Sの活用も含め、冬季のスポーツに関する情報の発信について、内容、効果的な方法などの検討を進めます。	スポーツ部
5	・スポーツマスターが将来的に地域で運営できるよう、人材育成やマッチングの仕組みができると良い。	すでに実施済み	平成27年度より派遣を希望する中学校が主体となり、人材の募集や連絡・調整を行うことといたしました。今後も学校を中心とした地域で子どもの教育を支える仕組みづくりを推進してまいりたいと考えます。	スポーツ部
6	・気候に恵まれた大都市のポテンシャルを活かしてほしい。大都市なので何をやっても多くの人が参加するポテンシャルがあるので、新しいことにどんどんチャレンジしてほしい。	すぐに実施する	雪やオリンピック開催都市としての有利性などを十分に活用して、冬季国際大会などの誘致、開催を進めるなど、スポーツを通じて札幌のまちが元気になるような取組を行っていきます。	スポーツ部

NO	提案事項	検討結果	市の今後の取組の考え方	所管部局
7	・学校（グラウンドや体育館）や公園（身近な公園・大通公園）などの公共施設の利活用を促進する。	検討する	屋内型の施設や歩くスキーコースとしての利用を除き、学校開放や公園等については概ね夏季にご利用いただいておりますが、ご提案のウィンタースポーツを目的とした公共施設の利活用については、費用や効果、市民ニーズなどを見極めながら、その可否について検討を進めてまいります。	スポーツ部
8	・学校施設の管理を、校舎とグラウンド・体育館に分け、グラウンド・体育館については指定管理等の仕組みを活用して管理する。学校として利用しない時間帯は、指定管理者の責任において、グラウンド・体育館を地域に開放し、地域のスポーツ施設として活用する。教育委員会の保険の適用範囲と学校開放の利用団体の保険の適用範囲を検証し、開放のリスクを管理する。	すでに実施済み	現在、学校の体育館、グラウンド、格技室及びプールについては、業務委託により、受託業者の責任において地域に開放し、地域のスポーツ施設として活用しております。また、学校開放事業中に発生した施設の瑕疵によるケガ等については、教育委員会が加入する保険により対応が可能です。	スポーツ部
9	・学校施設の開放においては、日曜日などにフリー参加（グループ参加ではなく）の時間を作ることと、「1人でも参加できる」「自由に参加できる」「いつでも参加できる」が可能とし、参加のハードルを下げる。	すでに実施済み	学校施設を活用したフリー参加型のスポーツ体験会、体験イベント等は実施しているところではありますが、多くの方が参加できるように回数や実施方法等について工夫してまいります。	スポーツ部
10	・自衛隊のトレーニング施設や隊員の指導者としてのノウハウを活用する。	すでに実施済み	自衛隊にはこれまでも大規模国際競技大会の開催や西岡バイアスロン競技場の活用等において協力をいただいているところです。今後も自衛隊を含めた他の公的団体との幅広い連携のあり方について検討を進めてまいります。	スポーツ部
11	・北大の施設の活用も推進する。	検討する	北海道大学には、北海道マラソンでは大学構内をコースとするなど、スポーツイベントに対する協力をいただいているところではありますが、ウィンタースポーツの振興という観点で、北海道大学を含めた他の教育機関との幅広い連携のあり方について今後も検討を進めてまいります。	スポーツ部
12	・企業などからの予算の確保策として、企業のCSR費用ではなく、額の大きいプロモーション費用の取り込みなどを検討する。	すでに実施済み	スポーツ大会、スポーツイベント等について企業の協賛金を活用しているところではありますが、ご提案の趣旨も踏まえ、企業との協力体制について検討を進めてまいります。	スポーツ部
13	・行政が地域と学校の窓口となり、高齢者が小・中学校の子どもたちと冬の遊びをする機会づくりを行う。	すでに実施済み	これまでも、雪中運動会など、地域において幅広い世代が冬の遊びを通じて交流するイベントは実施されておりますが、今後、ウィンタースポーツの普及の観点から、さらなる世代間の交流や冬遊びの普及が促進されるよう、既存の事業の実施における工夫などを進めてまいります。	スポーツ部
14	・冬の外出のしやすさ、身近にスポーツできる環境づくりが大切なので、雪中競歩や冬のマラソン大会など、簡単にできて、楽しめる面白い行事の開催により、冬の健康づくりのためのスポーツへの参加を促進する（大会などがあると目標になる。参加賞を設けることもモチベーションにつながる）。公道の使用はハードルが高いため、はじめはスモールスタートで公園を活用する。例えば、モエレ沼を会場に、まずかんじきレース、次に歩くスキー、ウォーキングという順に開催すると雪も踏み固められて良いのでは。	検討する	ウィンタースポーツの振興のためには冬でも身近にスポーツができる環境づくりは重要であることから、ご提案にあるような冬のスポーツイベントが、市のみならず民間や市民レベルでも多く開催されるような仕組み作りなど、今後の施策を検討する上でその可能性を検討してまいります。	スポーツ部